

# 男・大平邦夫の ダートラ 一本勝負!

全道600万人のオートワン読者の皆さん初めまして！大平といひます。

ひよんな事からチームオクヤマのワークスドライバーとして、全日本ダートトライアルに参戦すると言う重役を受け持つ事になってしまったという以外は、何処にでもいる北見に住む45歳の普通おっさんです。

オクヤマと言えばダートラやラリー等を中心とした歴史あるアフターパーツメーカーであると同時に、過去には宝田さんをはじめとするカリスマドライバーが在籍し、幾度となく好成績の実績を持つ歴史ある名門チームです。そんな凄腕チームで何故私のような普通のおっさんが走る事になったかは、本誌1月号をご覧いただければと思うわけで、決してシートを札束で買ったとかではありませぬ(笑)。せっかく参戦するのですから、自分一人で楽しむのとはちょっと違う思い、少しでもダートラの魅力や楽しさを多くの方々に伝える事が出来たらいいな、なんて思っていますのでよろしくお願ひ致します。

さて、長いようで短かったオフシーズンを終え、待ちに待った第一戦「ケンミレミアム」が、3月24日(土)栃木県那須市にある「丸和オートランド那須」で開幕しました。丸

和はダートラの「東の聖地」と言われ、超ハイスピードが売り物の全国のダートラ屋さんが絶対一度は走ってみたいと憧れるサーキットです。北海道とは異なり本州では景気回復の兆しもみられ、今大会にもスポンサー企業に株式投資企業が協賛してくださったり、テレビ取材が来ていたり、我がチームオクヤマからもレスキューインが大会に花を添えたりと全日本選手権らしい華やかな大会となりました。全国の腕自慢から寄せられた200を超えるエントリーから厳正な審査で選ばれた150台が、土曜日の公開練習を経て日曜の決勝を戦う2日間が始まります。

## 3月24日(土) 曇り 公開練習

午前7時、前日深夜入りした羽田空港そばのホテルに、赤白のオクヤマカラーのインプレッサを積んだ積載車を奥山社長自らが運転して、ニコニコ笑顔で迎えに来てくれる。あゝワークス一年生の戦いが、ついに始まる実感が湧いて来る。しかしいくら考えてももう後には引けないのだからやるしかない。ここからサーキットまでは、高速を使いスムーズに行けば2時間程度だが、週末ともなれば早朝から渋滞気味。10時現地に到着でパドックの設定を手伝ったりと、昨年以來久々に会うチームの仲間との再会を喜んだりする。原さんをはじめとする北海道遠征組も続々と到着、今大会では私を入れて8台がエントリーで、にぎやかなパドックとなった。

今日は1ヒートのみの走行でマシンの機能をチェックするのみ。張り切り過ぎてマシンを壊さないよう注意しながら走る作戦だ。何となく見た目が砂川に似ているここ丸和の路面は、実は砂川とは全く異なり、平均すると40〜50センチ、大きな物では縦横1メートルもあるような平板状の石を敷きつめた「強烈石畳」の上に、粒の揃った砂利を厚く敷き十分踏み固めて作った路面であり、浮き砂利の最初のうちはミューが一定



で、砂川のコースのようにコーナリングではブレーキングと姿勢さえ決まれば、あとは立ちあがりのアクセルコントロール気を使い走れば好タイムが出る路面も、砂利が掃ける明日の2ヒート目になる頃には、大きな石がゴロゴロと顔を出し、バッチリ決めて進入したコーナーだつて一瞬でも気を抜けば、気まぐれな石の上の何処を通るかで、いとも簡単にスピンやコースアウトしてしまう。

「丸和を制すは日本を制す」と誰かが言っていたが、私もその通りと思う。丸和デビューだった昨年の同大会では、なまら緊張してガチガチ走ったのが昨日のようですが、少しは成長したようでリラックスして走る事が出来た。結果は5位と言ったら聞かえがいいですがトップタイムとの差がありすぎで何の参考にもならず、公開練習は無事終了。テントをたたみ後片付けをしてホテルで少し休んで、チームの皆と居酒屋で夕食を食べる。今回は何とスポットでわがチームから参戦する、スーパーGTのスター「ブルー青木」さん、車

好きなら知らない人はいない「ターザン山田」さん、そしてビックリWRRCの「世界の新鮮敏弘」さんと豪華メンバーが同席し否が応でも盛り上がりませぬ。皆さん気さくな楽しい人たちで思い出深い夕食会となりました。

## 3月25日(日) 雨のち曇り 本番

5時にホテルを出発。何とも嫌な小雨が降っている。ダートラは路面変化に非常に気を使う競技のため、天候は「晴れなら晴れ」「雨なら雨」が良いと思うわけで、どちらかわからない中途半端の空が一番悩ましい。しかし地元の方にお聞きすると、2ヒート目の午後からは晴れるとの事で安心する。

走る前のコースの下見である完熟歩行では、ダートラ界のスターであり自分が「神」と称する北村選手と歩く。北村選手はホント素晴らしい方で、こんな物分りの悪い私にも何度も諦めず教えてくれる。知り合つたばかりの3年ほど前は、何を言つてるかさえ判らなかつたのも、最近はやつと意味だけは理解できるようになった。

1本目。雨は止んだけど路面は完全ウエット。アドバンのウエットタイヤA031を装着し走る。タイヤは思ったよりグリップシドドライバーが抑えすぎの感じ、別にミスはしてないのだけど全体に遅かつたらしく、25台中14位。仲間から「車の色が変わったからか？随分おとなしい走りになったね」なんて言われてしまった。どうせ2本目はドライタイヤでタイムアップするんだから、大丈夫、大丈夫と心に言い聞かせる。

2本目。路面に湿気はあるものの、ほとんど乾いた路面。いつもならドライタイヤA035を普通にチョイスするだけだが、実は今回は2種類のサイズを持ち込んでいた。1つは通常ランサー、インプレッサが使う「205・65・15」もう一つは「195・65・15」である。昨年の同大会でメカニックとの話で思いつい

たチョイスである。195は205に比べると外形はほぼ同じなのに巾が細い。インプレッサは4輪の重量バランスが良いのが特徴であるが、逆に言えば軽いとも言え、面圧を高めるために195はどうかと思つていた。考えはダンロップの「RW」と同じ。今後の大会の事も考え195で挑んだ。完全ドライとは言えない若干湿つた路面にベストマッチ！コントロールも205の比ではなく非常に乗りやすい。足回りの感触も良くご機嫌でドライブする。中間タイムも悪くない。

ところが調子に乗つて4速から1速にまで落とす名物コーナー「ダンロップヘアピン」で突つ込みすぎで、土手にまっしぐら。「あゝ、終わった」と思つたら何とか車が曲がり出し、リアバンパーを土手にぶつけながらも運良くクリヤーする。テクニカルセクションを抜け7位でゴール、結果的に3人抜かれ10位。トップ3には及ばなかつたが、あと0.9秒速ければ4位。あゝ、ダンロップヘアピンのバカ。レバ・タラは言つても何の意味もない。ダートラの厳しさだと思ふ。次は九州。生まれ初めて九州に行きます。ぶつつけ本番の当然初体験のコース。皆さん期待しないで次回をお楽しみに！

